

# 福島県病院協会ニュース

発行所：一般社団法人 福島県病院協会／発行人：佐藤勝彦／発行日：令和8年4月10日(金)

〒960-8036 福島市新町4-22(福島県医師会館3階)／TEL 024-521-1752／FAX 024-521-2986／URL <https://fukushima-ha.or.jp/>

第55号

## 復興により双葉病院の地域医療への思いを引き継ぐ

医療法人博文会 市里病院 院長 杉山健志



このたび二〇二五年十一月十七日に医療法人博文会市里病院のグランドオープンを迎えることができました。福島県病院協会の皆様には常日ごろより大変お世話になり、また誌面にてご挨拶をさせていただく機会を与えていただき心より感謝申し上げます。

まずは簡単に私の自己紹介をさせていただきます。出身は神奈川県で、一九八七年に徳島大学医学部を卒業し、北里大学精神科で研修した後、神奈川県、東京都、埼玉県などの病院に勤務していました。専門は臨床精神薬理で、大学病院時代は向精神薬の治験に参加したり、抗不安薬や睡眠薬のヒトの精神運動機能に対する影響の研究を行っていました。ボストンのマクリーン病院の研究所に留学していた

時は、老齡ラットの神経伝達物質の測定など生化学的な実験をしていました。二〇〇五年から大熊町の双葉病院に勤務していましたが、原発事故のため同じ法人のいわき開成病院に患者さんとともに避難し、そのまま開成病院の常勤医となり、二〇二一年に院長に就任し、二〇二三年の市里病院の仮オープンに際し新病院の院長となりました。

つぎに当院がグランドオープンを迎えるまでの経緯を紹介したいと思います。市里病院のルーツは一九六二年に法人の前理事長である鈴木市郎先生が双葉郡大熊町に開院した双葉病院にあります。双葉病院は浜通り地区最大の三五〇床を有する精神科病院で、町内に老人保健施設と認知症対応型のグループホームの運営も行っていました。原発事故により全ての施設は閉鎖となり、いわき市鹿島町にある同じ法人のいわき開成病院（精神科二六二床）に法人本部の機能を移し双葉病院の再開を模索しておりますが、二〇一九年に前理事長が他界。長女で精

神科医でもある松本千穂理事長が復興の志を引き継いだものの、未だ一部が帰還困難地域となっている大熊町はもとより、人口の激減した双葉郡内で民間病院を再開することは到底困難であると判断しました。一方一九七八年に開院したいわき開成病院は東日本大地震のダメージと老朽化により、近い将来の建て替えは避けられない状況でした。そして議論を重ねた結果、いわき開成病院の土地を双葉病院の復興の地とすることに決定しました。二〇二二年に一期工事としていわき開成病院の敷地内で新病院の建設を始め、二〇二三年十一月に二病棟九八床の新病院を『市里病院』と命名し仮オープンしました（いわき開成病院は閉鎖）。病院の名前は、鈴木市郎先生の「病院を患者さんにとって心の安らぐ『ふる里』のようなところにした」という地域医療に対する強い思いを込めて命名しました。二期工事としていわき開成病院を解体した土地に市里病院を拡張する形で四病棟二四〇床の病院が

完成しグランドオープンの運びとなりました。現在は二病棟二〇〇床で運用し、今後地域医療のニーズに応じて機能を広げていく予定です。

新病院では、AIの支援を視野に入れた医療DXの導入、ニュークックチルを採用し新しい給食システムによる食の安全性確保と効率化、最新の感染症対策や医療安全、災害対策とりわけBCP（事業継続計画）に対応した設計とビル管理システムなどにより、利用される患者さんや働く職員の快適性、安全性に配慮したハードウェアとソフトウェアの導入を行いました。私が医師になった頃と比べて精神科医療に求められるニーズは遥かに広がっております。比較的軽度のメンタル不調を理由に受診される患者さんは増えており、一方認知症の増加により施設や家庭で対応できない重症の患者さんへの対応を求められる場面が増えてきております。

グランドオープンしたばかりの市里病院で対応できることはまだまだ限られておりますが、今後スタッフの充実とスキルアップにより地域住民の皆様のメンタルヘルスに広く貢献できる病院に発展させていきたいと思っております。福島県病院協会の皆様には今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜るようよろしくお願い申し上げます。

# 南相馬から新地に移転・県境をまたいで 地域医療を担う

医療法人伸裕会渡辺病院 院長 平山 克



この度、令和五年四月一日付  
けをもちまして、前院長渡辺泰  
章先生（現理事長）の後任とし  
て医療法人伸裕会渡辺病院院長  
に就任いたしました。福島県病  
院協会の皆様には常日頃より大  
変お世話になり、心より感謝申  
し上げます。

簡単に自己紹介をさせていた  
だきます。出身は秋田県能代市  
です。東北大学医学部昭和五十  
年卒業で、昭和五十三年に母校  
の第二外科に入局しました。葛  
西森夫教授、次いで森昌造教授  
の厳しい指導を受けました。専  
門は食道外科です。在局は平成  
七年までの十七年間でした。在  
局中で、一番強く脳裏に残って

いるのは平成五年四月に森昌造  
教授が主宰した第九十三回日本  
外科学会総会の開催でしょうか。

平成七年に秋田県横手市に在  
る平鹿総合病院に外科科長とし  
て赴任して令和五年春までの二  
十八年間勤務しました。職責と  
しては、副院長職を六年間、院  
長職を八年間務めました。

この度の赴任は、第二外科の  
現任教授である亀井尚先生の差  
配による医局人事に依ります。

原発事故によって余儀なくさ  
れた病院移転の経緯を中心に、  
当院の紹介をさせていただきま  
す。

当院は、大正十五年に南相馬  
市（当時は原町市）の中心部で  
開業しました（従って、今年が  
当院の開設一〇〇周年に当たり  
ます）。その後、開設当時の二  
〇床から段階的に増床を繰り返  
して、平成元年に市内の別の場  
所に移転した時には一七五床

（内一三床は集中治療室）に増  
床してMRI撮影装置、血管撮  
影装置も新設しました。

しかし、平成二十三年三月十  
一日の東日本大震災と引き続い  
た東京電力福島第一原発事故に  
より当院は深刻なダメージを受  
けました。原発の二〇〜三〇km  
に入る南相馬市原町区には三月  
十五日に屋内退避の指示が出さ  
れました。当時、一〇〇人を超  
える入院患者さんを抱えていま  
したが、食事も満足に提供出来  
なくなり、比較的軽症の患者さ  
んは自宅へ、それ以外の患者さ  
んは県内外に転院してもらいま  
した。この頃、南相馬市内では  
物流が途絶え、医療機関の業務  
継続は極めて困難になっていま  
した。当院を含む市内の主な医  
療機関は四月初めに取りあえず  
外来診療を再開しましたが、外  
来だけでは経営的に極めて厳し  
く、このまま市内に留まっても  
看護師らの確保が難しいことか

ら病院移転を決断しました。  
移転先には、同じ相双医療圏  
で第一原発から最も離れた新地  
町を選択しました。地元の公立  
病院の経営に与える影響を危惧  
する声もありましたが、平成二  
十六年三月に新病院が完成しま  
した。

現病院の診療科目は外科、内  
科、整形外科、消化器内科、歯  
科、心臓血管外科・循環器内科  
、脳神経外科、泌尿器科、麻酔科  
、放射線科、皮膚科、リハビリ  
テーション科であり、病床数一  
四〇床（急性期九三床、地域包  
括ケア四七床）です。

原発事故がなければあり得な  
かった新地町への移転から十一  
年が経過して、外来患者さんの  
割合は大きく様変わりしました。  
原発事故前は南相馬市と相馬市  
で七〇%、残りは南の浪江町な  
どでしたが、現在は新地町と相  
馬市で七〇%を占めます。以前  
はゼロだった宮城県南の山元町  
、亘理町、丸森町と角田市が合  
せて一三%に達し、一七%の南  
相馬市と大差なくなりました。  
救急搬送件数では宮城県南が  
全体の三〇%に上り、新地町と  
ほぼ同じ割合になっています。  
振り返れば、十四年前の原発

事故で病院が存亡の危機に追い  
込まれて、一大決心で踏み切っ  
た移転でしたが、今後とも県境  
をまたいで地域医療に貢献して  
いく所存です。

前任の平鹿総合病院は、地域  
の二次、三次救急を一手に引き  
受けており、まさに野戦病院さ  
ながらの急性期病院でした。僕  
は同僚スタッフを密かに、野武  
士のような（良い意味です、  
勿論）と評しておりました。

渡辺病院は、物静かな雰囲気  
の中にも大変強く芯が通っている  
スタッフがとても多くて、東日  
本大震災と東京電力福島第一原  
発事故により、病院スタッフは  
公私ともに筆舌に尽し難い程の  
辛苦の道を強いられた訳ですが、  
それらを乗り越えていく過程で  
人間性が磨かれるのだというこ  
とを改めて実感しています。

病院長として、地域医療の最  
前線を担い良質な医療を提供す  
る責任を負うことは言うまでも  
ありません。同時に、健全経営  
により病院職員の雇用と生活を  
しっかりと守ることも重要な責務  
であると考えています。



公益財団法人湯浅報恩会  
寿泉堂総合病院



院長 佐久間 潤

\*病院紹介⑤\*

◆概要

所在地：福島県郡山市駅前二丁目一―一七

開設年月日：明治二十年（一八八七年）八月二十日

診療科目：内科（循環器・消化器・呼吸器・腎臓・糖尿病・血液・神経）、心療内科、精神科、小児科、外科（消化器・乳腺・心臓血管・脳神経）、整形外科、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、皮膚科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、病理診断科、救急科など計三五診療科  
病床数：許可病床二九五床（一般二八一床、NICU六床、HCU八床）  
常勤医師数：六二名（二〇二五年四月一日時点 歯科医師五名、臨床研修医二名を含む）  
病院機能評価：一般病院 2 3rd C: Ver.3.0  
理念：「患者さん第一」心の通う医療を

◆沿革

明治二十（一八八七）年八月 湯浅医院開業  
明治二十四（一八九一）年 寿泉堂医院と改称  
明治三十六（一九〇三）年十一月 寿泉堂病院開設  
診療科目：内、外、婦、耳、眼、歯  
昭和二十四（一九四九）年十月 医師実地修練病院指定 分娩室、新生児室、研究室新設  
昭和二十五（一九五〇）年十二月 管理棟、南病棟新築（病床数二一六床）  
昭和二十六（一九五二）年九月 医療法人（財団）寿泉堂病院設立  
昭和二十八（一九五三）年七月 財団法人湯浅報恩会を設立（病床数一四〇床）  
昭和三十七（一九六二）年七月 寿泉堂総合病院改築第一期工事落成（病床数二〇六床）  
昭和三十九（一九六四）年九月 救急告示病院に指定  
昭和四十七（一九七二）年一月 寿泉堂総合病院改築第三期工事落成（病床数三二六床）  
昭和五十（一九七五）年四月 郡山夜間急病センター二次病院協力  
昭和六十一（一九八六）年八月 許可病床増床（三六〇床）  
昭和六十二（一九八七）年六月 「寿泉堂総合病院創立二〇〇周年記念式典」を挙行  
平成十一（一九九九）年三月 日本医療機能評価機構から一般病院種別Bの機能評価  
平成十五（二〇〇三）年八月 届け出病床数変更 一般三〇五床  
平成二十三（二〇一一）年二月 現在地（郡山市駅前二丁目一番一七号）に移転開院

平成二十四（二〇二二）年九月 地域医療支援病院承認  
平成二十五（二〇二三）年四月 公益財団法人へと移行し、公益財団法人湯浅報恩会となる  
平成二十七（二〇一五）年七月（公財）JHQCクオリティクラス「プロフィール認証」取得  
平成二十七（二〇一五）年九月 電子カルテシステム導入（MIRAI/ PX）  
平成三十（二〇一八）年七月（公財）JHQCクオリティクラス「Aクラス認証」取得  
令和二（二〇二一）年四月 COVID-19陽性患者受入れ病床二床 後に一〇床まで増床  
令和四（二〇二二）年九月 電子カルテシステム更新（MIRAI/ AN）  
令和五（二〇二三）年八月 紹介受診重点医療機関  
令和六（二〇二四）年五月 新生児集中治療室（NICU）開設  
令和七（二〇二五）年十月 届け出病床数変更により二九五床 令和八（二〇二六）年三月 ハイケアユニット（HCU）開設

◆現状と今後の展望

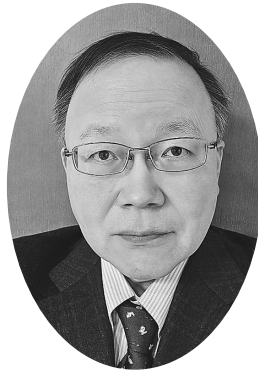
当院は、地域医療支援病院・紹介受診重点医療機関として急性期医療や高度な専門治療を提供し、地域の診療所等の先生方と連携し地域医療を守っていくことを最大の使命としています。持続可能な地域医療体制を維持するため、二〇二四年秋から病院を挙げた意識改革・体質改善に取り組んできました。すなわち、①入院期間Ⅱまでの退院率七〇%以上（医療の標準化）、②新規入院患者数の確保（地域の医療機関からの信頼度）、③一日入院診療単価の向上（高度医療の提供）です。これらは急性期病院・DPC病院を運営・経営していく上で不可欠な三要素です。この目標をクリアするため、まず地域医療支援病院や紹介受診重点医療機関として外来機能を整理する必要があります。医師の働き方改革もあり医師の負担軽減のため、「一般外来の適正化（縮小）」と「紹介外来枠の拡大」を並行して行う計画を立てました。紹介外来枠の拡大においては、いつでも診療所等からネットで予約が取れる「e連携」を導入し、診療所等の先生方や事務の方の負担軽減も図っています。次に当院では、遅ればせながら二〇二四年秋からDPC期間Ⅱを意識したクリニカルパスの見直しやベッドコントロールを開始し、平均在院日数は八・一日、入院単価も一昨年比で一万円以上増加させることができました。しかしベッドの回転に新規入院者数が追いついていないのが現状です。救急については、二〇二五年十月に救急センターの体制を整備し、特に平日日中の救急応需率は昨年比で一〇ポイント近く上昇しました。救急全科日夜間は一人名体制、内科指定日は五名体制で対応していますが、医師の働き方改革によって、非指定日の夜間救急が十分に対応できていないことが今後改善すべき点です。また手術室の効率的な運用も大きな課題でした。医師の絶対数の少ない当院では、半数以上の診療科で午前中に外来診療、午後から手術が慣習となっていたため、午前中の手術室稼働率が悪いのが

実情でした。外科系診療科医師、麻酔科医師、手術室スタッフと協議を重ね、午前中からの手術数を増やす努力を重ねた結果、全身麻酔件数は月平均で一六件増加し、一、八〇〇件/年を超えるペースとなりました。特に眼科では県内初の白内障・硝子体手術機器を導入し、県内から患者紹介をいただく精神的に手術を行っています。旧寿泉堂病院跡地の再開発事業により、二階建ての医住複合ビルが建設され、その一、三階に寿泉堂クリニックが入居し、二〇二六年三月一日に診療を開始します。寿泉堂総合病院は郡山市の中核病院として急性期医療・救急医療を担い、寿泉堂クリニックは健診・透析・外来診療を中心に地域医療の予防・慢性期対応を強化します。両施設の連携により、郡山駅前で高度医療と健康管理を一体的に提供する体制が整います。また湯浅報恩会にはリハビリテーションと回復期医療を担う寿泉堂香久山病院があり、慢性期や在宅介護についてもシームレスな医療の提供を目指しています。

医療を取り巻く環境は刻々と変化しており、二〇二六年には診療報酬改定が予定されています。プラス改定にはなるようですが、様々な加算がどうなるのかまだ予断を許さない状況です。厳しい経営環境の中でも、地域の皆さん、連携医療機関の皆さん、当院の職員が満足できるような病院にしていきたいと考えています。

# 地域の核となるような コミュニケーションホスピタルを目指して

医療法人昨雲会飯塚病院附属有隣病院  
理事長 飯塚 卓



第一次医療法改正の病床規制の前に増床し一六〇床とし、その後平成十五年の第四次医療法改正に伴う病床区分では一二三床を一般、三七床を療養病床としました。

医療法人昨雲会飯塚病院附属有隣病院は昭和五十九年に喜多方市の北西部に開設しました。前身である飯塚病院は精神科の病院であるため市の中心部より少し離れた北西部（当時市町村合併がなく熱塩加納村のすぐ近く）に昭和四十二年に開設しました。十七年後、地域の医療需要に因るために精神科病院のすぐ隣に有隣病院が建築されました。開設当初の院長は外科医で透析も行う羽田一博先生でしたが、なんでもこなす先生で、昼夜を問わず救急患者の受け入れ、消化器系の手術、時には肺の手術まで行い、さらには透析専門医として緊急の透析患者の受け入れなど急性期病院としての礎を築いていただきました。病床数は当初一二〇床でしたが、

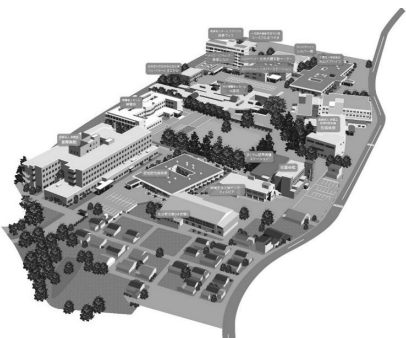
床化が進み、加えて医療従事者の不足や高齢化等から有隣病院の看護職員を精神科の飯塚病院へ少しづつ異動しなければならなくなり、二七床あった療養病床を一般病床に転換して地域包括ケア病床を取り入れ、病床数も減少して運営しております。

喜多方市では地域の拠点病院として認めていただいていた福島県立医大・新潟大学・東邦大学など多くの医大からの医師派遣をいただいていたのですが、その後臨床研修医制度の改定で大学医局の人員が大幅に減少し派遣が難しくなったことで次々に大学からの派遣が中止となりました。会津二次医療圏というくくりで考えれば、会津若松市に大きな病院が三つありますからそこかわずか二〇kmほどしか離れていない喜多方市に多くの医師を派遣するよりは会津の中心である会津若松市に医師派遣すべき、という考え方だったのだろうと思います。その結果、現在当院で行っている診療科は内科・外科・整形外科などとなり、院長は整形外科の丸谷先生にお願いしています。さらに、地域の高齢化と周辺の医療機関の療養病

は、医療法人のほか別法人として社会福祉法人も設立して、現在病院のある喜多方市北西部の敷地内には飯塚病院・有隣病院という医療機関のほか、社会福祉法人の展開する特養・老健・グループホーム・軽費老人ホーム・養護老人ホームなどが建築されており、ほぼ同一敷地内に存在しています。社会福祉法人ではそのほか救護施設と二つの特養もありますが、これらは病院からは少し離れたところにあります。施設入所者数は五〇〇名を数え、こうした施設の入所者の急性期疾患もほとんど医療法人において診療を行っています。

急病院という二つの病院を運営してまいりましたが、昨今の医療行政は急性期病院に対してたいへん厳しい条件をつきつけてきています。医療・看護必要度や平均在院日数、さらには救急車の受け入れ台数などクリアするのに四苦八苦することが増えてきました。人員確保も困難を極めており、急性期として行ってきた有隣病院の医療の在り方や役割をどう変換すべきか、というところをここ数年にわたり検討してきました。創設当初のような、「なんでもこなす医療」ということは不可能になつてきていますので、これからはいわゆる「かかりつけ医」や「在宅療養支援病院」といった地域密着型の住民を巻き込んだ医療を目指していきたいと思っております。二〇二五年までの地域医療構想では当院は病床機能報告では急性期機能を選択していましたが、二〇二七年度から始まる今後の地域医療構想では「包括期」を目指そうと思っております。会津二次医療圏には大きな病院が三つあります。会津を縦断するような自動車専用道路もありますから、手術を含む急性期医療に関しては会津若松市の病院群にお任せし、当院は急性期を脱した包括期の医療を担い、また、周辺に多数の施設入所者がいますので、こうした方々の感染症等の高齢者救急やリハビリ対応を行っていききたいと思

います。そして、できればこの地域においていろいろな医療・介護にかかわる人たちが集まり、さらにはそのご家族も集まってくるような「コミュニティ」でもいうような場となり、人々を癒し支える役割を果たしていきたいと思っております。二〇二七年度からの新地域医療構想では精神科病床にも目標となるベッド数が決められるようになる、と聞いています。今後病院には病床機能報告、重点外来報告、かかりつけ医機能報告に加えて医療機関機能報告という新しいカテゴリーの報告も義務付けられるようです。ついていくのもたいへんですが、高齢化が進む喜多方市において、精神科ともども、住民の方々を治し支える医療を行い地域包括ケアシステムの一助となるべく運営を続けたいと思っております。県病院協会の皆さま今後ともよろしくお願いたします。



### 令和七年度『経営管理研修会』を開催

令和七年十一月十八日(火)福島県医師会館一階 大会議室において、Webハイブリッド方式による令和七年度『経営管理研修会』を開催しました。講師は、国際医療福祉大学大学院 医療福祉経営専攻 医療経営管理分野 教授の角田佳雄先生をお迎えし、『MBA的組織行動論・人的資源管理〜ホモサピエンスを理解する〜』と題し、病院経営におけるZ世代のマネジメントの活用と病院組織で高める心理的安全性や生成AIによる医師の働き方についてご講演をいただいた。(参加者四五名)



### 令和七年度『医療研修会』を開催

令和八年一月二十二日(木)福島県医師会館一階 大会議室において、Webハイブリッド方式による令和七年度『医療研修会』を開催しました。講師は、『XJ Medical』株式会社の代表取締役 園生智弘先生をお迎えし、『医療現場の生成AI活用と未来の電子カルテ』と題し、医療現場で生成AIを活用するメリット、次世代のAI電子カルテの活用による今後の病院経営に与える影響など医療の質を求めていくためのツールとして具体的な例をもとに解説していただいた。(参加者四一名)



# 令和七年度『救急医療研修会』を開催

令和八年三月十一日(水)郡山市 郡山ビューホテルアネックスにおいて、令和七年度『救急医療研修会』を開催いたしました。講師は、福島県立医科大学特任教授・一般財団法人太田綜合病院附属太田西ノ内病院特任病院長の川前金幸先生より、『チーム医療と心理的安全性』と題して、医療現場における心理的安全性の重要性、ICTやAIを活用した新たな救急システムの可能性、病院間連携・地域医療構想の実現についてご講演をいただきました。(参加者六〇名)



# 令和七年度第29回看護補助者研修会を開催

令和七年度看護補助者研修会は、四日間の日程でWebシテムによる研修会を開催いたしました。

参加者は、五九会員病院から二八八名の看護補助者、介護福祉士、病棟クラーク等の職員の皆さんが参加され、講義Ⅰ・講義Ⅱの内容で受講されました。

## ◆令和七年度第二九回看護補助者研修会プログラム

- 一、開会
- 二、主催者挨拶
- 三、講義
- 四、閉会

※受講証明書交付は全日程終了後郵送にて交付

### 【講義Ⅰ】

『看護補助者の業務内容と基礎的な知識』

#### (内容)

- (一) 医療チーム・看護チームの一員としての看護補助業務
- ・医療制度の概要、病院機能と組織(守秘義務・法令遵守、個人情報保護)
- ・看護補助者の主な業務範囲(看護補助業務の理解)

- ・看護補助者に求められる倫理(基本的な考え方と態度)
- (二) 看護補助業務を遂行するための基礎的知識

・看護師と看護補助者の役割分担・連携

・看護チームとしての情報共有(報告・連携・相談)

・日常業務に係る業務(実施手順、留意事項)

・看護補助者としての必要な基本姿勢(自己の健康管理、患者、患者家族とのコミュニケーション)

### 【講義Ⅱ】

『看護補助者業務における医療安全と感染防止』

#### (内容)

- (一) 医療安全の基礎知識
- ・医療安全組織体制、事故発生時の対応
- ・看護補助業務における医療安全
- ・直接ケアに関わる医療安全(誤認、転倒転落、スキンケア)
- ・感染予防の基礎知識
- ・起りやすい院内感染
- ・感染予防策(手洗い・消毒・個人防護具の着脱)

・医療廃棄物、ごみの分別  
A日程 令和七年十一月二十一日(金)  
参加状況…二七病院 七三名  
公益財団法人報恩会 寿泉堂  
綜合病院

〔講義Ⅰ〕  
看護係長 根本 宏美先生

〔講義Ⅱ〕  
看護科長 齋藤登志子先生  
(医療安全室副室長統括リ  
スクマネージャー)  
看護科長 柳沼 順子先生  
(感染対策室 感染管理認定看護師)



柳沼 順子先生

齋藤登志子先生

根本 宏美先生

B日程 令和七年十一月二十八日(金)

参加状況…二二病院 五二名

医療法人辰星会 柘記念病院

〔講義Ⅰ〕

看護副部長 小林 誠一先生

(看護管理室・診療看護師)

〔講義Ⅱ〕

医療安全管理者

菅野 史子先生

(医療安全対策室 室長)

感染管理認定看護師

熊田ふみ子先生

(感染対策室 責任者)



小林 誠一先生



菅野 史子先生



熊田ふみ子先生

C日程 令和七年十二月九日(火)

参加状況…三三病院 八五名

南相馬市立総合病院

〔講義Ⅰ〕

看護師長 久米本江里先生

(地域医療連携室 次長)

〔講義Ⅱ〕

看護師長 柘谷 拓郎先生

(医療安全管理室 次長)

看護師 佐藤八千代先生

(感染制御室)



久米本江里先生



柘谷 拓郎先生



佐藤八千代先生

D日程 令和七年十二月十六日(火)

参加状況…二七病院 七八名

一般財団法人大原記念財団

大原綜合病院

〔講義Ⅰ〕

看護師長 齋藤 美樹先生

〔講義Ⅱ〕

看護師長 伊藤小枝子先生



齋藤 美樹先生



伊藤小枝子先生



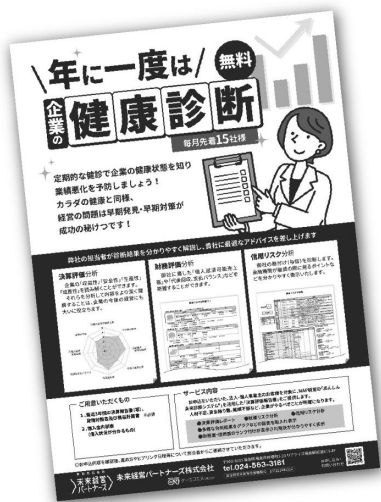
茨木 直子先生

(医療安全管理部 安全管理室)

看護師長 茨木 直子先生

(医療安全管理部 感染対策室 感染管理認定看護師)





貴院の医業経営の安定に向け、  
まずは財務状況の『健康診断』から  
始めてみませんか？

はじめまして。  
資金繰り改善と経営計画の専門家、  
未来経営パートナーズ株式会社です。  
このたび福島県病院協会の  
準会員・賛助会員として加盟いたしました。  
よろしくお願いたします！

はじめまして。



上級経営会計専門家  
**齋藤 健太**  
ケーエフエスグループ  
未来経営パートナーズ株式会社  
代表取締役

事前対応会計

未来経営  
パートナーズ

お問い合わせは、お電話かスマホからどうぞ！

未来経営パートナーズ株式会社

TEL 024-563-3181 (担当:野田)

〒960-8103 福島市舟場町1-20 リアライズ福島駅前通ビル4F

認定経営革新等支援機関ID 107213001512

お問い合わせ



公式サイト



ケーエフエス GROUP



**いのちと向き合う人を  
支えたい**

小さな怪我、いのちに関わる大きな病。  
医療に関わる人たちが最善の医療を提供するために。  
患者様が希望を持って病と向き合うために。  
最新の医療情報をお届けし、  
より良い医療機器をご提案することが使命。  
私たちはサンセイ医機株式会社です。

**SNS**  
サンセイ医機株式会社

つなぐ、人と未来。  
**OLBA**  
GROUP

本店：〒963-8822 福島県郡山市昭和二丁目11番5号 TEL 024-944-1157

福島営業所 024-545-3041 郡山営業所 024-944-1127 会津営業所 0242-39-6801 いわき営業所 0246-27-2300 原町営業所 0244-23-4611 東京営業所 042-370-6531  
仙台営業所 022-746-8875 栃木営業所 0289-72-0155 札幌センター 0243-62-0155

 **損保ジャパン**  
SOMPO Innovation for Wellbeing

# Innovation for Wellbeing

すべての人々の幸せと、より良い社会のために。  
私たちは、笑顔と活力あふれる「確かな明日」へ、  
イノベーションを起こし続けます。



損保ジャパンは SOMPOグループの一員です。

損害保険ジャパン株式会社  
福島支店 福島支社  
〒960-8105 福島県福島市仲間町9-16 日産第2ビル 4F  
<https://www.sompo-japan.co.jp/>